

北朝鮮特集：中国が対北朝鮮政策を変更

漢和防務評論 20140730(抄訳)

平可夫

阿部信行

(訳者コメント)

日朝間で拉致被害者調査の交渉が行われていますが、先行きは不透明です。北朝鮮は、日本と中国を天秤にかけながら交渉していると思います。日本も北朝鮮の足元を見ながらあわてず交渉すべきです。6月のデータですが、中朝国境での中国から北朝鮮への原油輸送は4ヶ月止まっているとのこと。足元に火がついた北朝鮮は中国に対し、日本カードを切ったつもりでしょう。漢和防務評論誌は、張成澤が処刑された理由を、中国が金正男を保護しているからとしています。

この3月、中韓首脳会談において、両国首脳は、北朝鮮の核保有に反対を表明した。これは、両国首脳が北朝鮮の核保有政策に公式の場で初めて反対を表明したことになる。これは、中国が、北朝鮮を庇護する立場から曖昧であった対北朝鮮政策を相当明確な方向へ政策転換したことを示した。その後、日米韓は、朴槿恵が大統領になって初めての首脳会談を開催した。その間、北朝鮮は、西部海岸の北肅川（中朝国境から200km以内）の発射場から射程1300kmの”ノドン”型弾道ミサイルを発射し日本海の射場に落下させた。射距離は約650kmであり、”ノドン”が高弾道発射方式を採用したとすれば、北肅川から1300kmの射程は京津地区（中国の北京、天津地区）まで届くことになる。このことから、北朝鮮の今回の試射の意図が分かる。金正恩が就任してから2年、特に今年に入ってから、特に張成澤を処刑した後は、中国に対する不満表明が露骨になってきた。

この2月、韓国の報道によると、金正日は中朝国境を”戦線”と呼んでいたと。3月の韓国報道によると、北朝鮮の姜健軍事大学には”中国は裏切り者！我々の敵”の標語が掲げられているという。これは1992年に、中韓国交樹立の際に金日成が発した語録である。その後、何度も北朝鮮の軍事大学に掲げられている。本誌は、韓国の北朝鮮報道に対しては従来から極めて慎重な姿勢を採ってきた。しかし”中国は裏切り者”との言い方がなされたことは、1992年に北朝鮮内部が公開されてから、各種情報源によってすでに証明された。軍人を含む多くの北朝鮮からの逃亡者、欧州や韓国に所在する芸術家は、日本のメディア及びテレビに対し同様の事実を述べた。

今年6月の中朝国境貿易統計によると、中国はすでに4ヶ月間北朝鮮に原油を

提供していない。これは稀に見る現象である。これが続けば北朝鮮経済は崩壊する。

北朝鮮は、金正恩が指導者に就任した後、対中国政策を変更した、と本誌は見ている。金正恩は、中国の何が気に入らないのだろうか？本誌は、張成澤の判決書を詳細に分析した。その中には彼の湯水のごとき金銭の浪費について書かれていた：彼は明らかに賭博をやっていた。2009年に海外の賭博場に出入りし、460万ユーロをすってしまった。

張成澤は何处で賭博をしたのだろうか？本誌は最後の3年間に出国した外国を調べた。中国しかなかった。ある伝聞情報によると、金敬姫がシンガポールに現れたことがあるという。それは大いにわけがある。平壤、シンガポール、北京及び中国全域では、張成澤が1回の賭博で460万ユーロ以上すってしまうことは不可能だ。この地域で唯一賭博が出来る場所は、澳門である。もしこの推測が正しければ、張成澤は澳門に行って何をしたか？賭博のためだけに行ったのか？張成澤事件の後、本誌は、金敬姫すら政治舞台から遠ざけられているはずだと推測した。

張成澤はどのようにして460万ユーロ（約4920万香港ドル）をすったのか？本誌記者は調査のため澳門に行き、最も豪華な賭博場を調査した。賭場の開票は1回当たり最高額が200万香港ドルであるが、これは一般人の賭金額ではない。たとえ1晩で、5時間、健康な人が賭けごとをやったとしても200回が限度であり、もし200回全部負けたならば、最大の負け額は4億香港ドルになる。しかし賭場の専門家の話によると、このようなことはあり得ないという。近年来、最大の賭徒は中国の汚職役人である。彼らは最高で1回2000-3000万香港ドルの現金を持って賭ける。一般人が携帯するのは1000万香港ドル以下の現金である。この種の賭博の仕方は、通常飲食自由、サウナ等のある1000尺の豪華VIP専用ルームで行われる。一晩で勝ったり負けたりするが、2-3000万負ける人は大金持ちであり、そんな人は多くない。したがってKDRは、張成澤が使った金は別のところから出ていると推測している。

現在我々が自ら皇帝になった心境になり、2009年に金正日が重病になったような状況に陥った場合を想像してみるとよい。最も信頼できる妹とその夫を招いて何を言ったのだろうか？病院には、金正恩、金正恩の妹と金敬姫及び張成澤だけが何度も見舞いに訪れたという。フランスの医師は日本のテレビにこのように説明した。

以下は本誌が想定した場面である（病室にて）：

金正日は金敬姫及び張成澤に向かって：私が一番心配なのは、正男（長男）のことである。一人で海外に滞在し、帰国は不可能だ。正恩を頼りにしているが、難しい局面もあろう。彼が出鱈目をやらないように、困窮しないように君たち

は常に彼の面倒を見てやってくれ！と。

これが張成澤の”賭博”、”政変”の内幕である可能性がある。外戚と新皇帝の兄弟の”串通”（註：ぐるになること）は絶対禁物である。しかも背後に中国が関わっている。本誌の総合判断によると、金正恩が張成澤を処断した最大の理由は、中国が金正男を保護していることに対する怨恨であったと考える。

再度中国の対北朝鮮外交政策の変化をみる。北朝鮮の内部事情にかなり詳しい中国軍内高級軍人は、最近、北朝鮮情勢と中国の姿勢について次のように述べた：

1. 2006年以降の3回の核実験の状況を見ると、北朝鮮は実質的な核保有に達していると判断できる。北朝鮮は、朝鮮半島の非核化をめざす国際社会に挑戦している。
2. 北の核は、米国のアジアのリバランス戦略推進に口実を与え、また東北アジアの軍備競争の新たな誘因となり、さらに中朝間の軍事圧力を増大する可能性がある。
3. 北朝鮮は、”自力で核を保有する”戦略を改変せず、多大の外圧を受けようとも、既定の方針に従って核実験を継続し、核の武器化に向かって邁進している。
4. 我々が行っている穏朝、助朝政策（北朝鮮を穏やかに処遇し、援助する政策）は、大きな国際圧力を受けるだけでなく、国内民意の反発を受けている。
5. 北朝鮮の実質的な核保有は、国際的な核不拡散体制に対する挑戦となるだけでなく、地域の平和と安全を脅かし、同時に日米等が軍事力によって中国の平和発展を阻止する口実を提供している。さらには、韓国及び日本が民用核エネルギー開発を理由に集積した核技術を、核兵器開発に利用しようとする誘因となっている。

2項は、中国軍が北朝鮮の核兵器保有を厭う大きな理由であり、米国の対中国封じ込め政策を招いている。4項は、胡錦濤時代の穏朝、助朝政策が内外の批判を浴びたことを明確に述べている。これらの批判は党内からもあり、2月に、北朝鮮大使館は公開書簡をもって、中共党校朝鮮問題専門家の志願軍陵墓に関する談話を批判した。公開書簡は：朝鮮人民全体の怒りを引き起こしたと述べた。これらの意思表示方式は史上例が無い。

これは、中国政府の対北朝鮮政策が”曖昧”戦略から”明確”な戦略になったことがその背景にある。北朝鮮の第2次核実験の後、中国の北朝鮮核に対する政策が”曖昧”であると間接的に批判された。曖昧な言い方は次の通り：中国は半島の非核化を主張する。また中国は交渉を通じて北朝鮮の核問題を解決する、等である。北朝鮮は、4月1日、第4次核実験実施の可能性を高言した。本誌の判断は：北朝鮮の大言壮語は、宣伝戦、心理戦の手段であり、実行される

とは限らない。

以上